

平成30年度第1回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 平成30年7月24日（火）9時30分～10時32分

会 場 倉敷市役所本庁舎7階 703会議室

出席者

委員 中西委員，永瀬委員（副会長），平井委員，森脇委員（監事），岡本委員（会長），植田委員
平岡委員，榊原委員（監事）

事務局

保健福祉局）尾崎副参事

保健福祉推進課）丸野課長主幹，渡辺主幹，金田主任，山砥主事

欠席者

委員 藤田委員，中野委員

事務局 佐藤副主任

傍聴者 なし

議事内容（要旨）

1 開 会

委員8名の出席により，倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき，会議が成立していることを確認し，開会を宣言した。

2 議 事 （発言者：◎会長 ○委員 ■事務局）

（1）平成29年度事業報告，決算報告及び監査報告について

■ 資料に従い説明を行った。

○ 基金の歳入歳出について監査した結果，歳入歳出各科目の収支に関する経理は，基金の目的に沿って適切に処理され，関係帳簿も正確であったことを報告し，監査報告とする。

承認

（2）平成30年度事業計画及び予算（案），各申請団体の審査について

■ 資料に従い説明を行った。

◎ 夏のボランティア体験事業について，豪雨災害が発生したことに伴い，中止したい旨の申し出があった。既に準備は進められていたとのことだが，実施はできにくいとのことである。

○ 社協は，現在真備の災害ボランティアの対応で手が回らない状況にあり，地区社協などにも，ボランティアの応援をしてもらいたい旨の案内を送り，呼びかけを行っている。そのため，受け皿の部分が全然機能していないため実施できない，という理由のように思う。

■ 実際にボランティアセンターに現状を確認すると，手が回らない状況が伺える。

○ 社協が中心となり，本当に大変な状況でボランティアセンターを回されている。学生も多くボランティアに参加しており，実際に体験事業をしなくても実地をされている状況である。ボランティアセンターは，とりあえず年末までは災害ボランティアを続けていくと言われていた。

◎ いつか再開できればと思う。それでは夏のボランティア体験事業について，中止としてよろしいか。

承認

◎ 助成事業については，昨年2年目であった団体が2件辞退したので，合計で12件となっている。

- 2年目の真備の団体については、おそらく活動ができない状況だと思う。もし今年活動ができず、後から再開する場合、また2年目とするのか、そこが疑問に思う。
- 実績として、こういった活動ができたのか見させていただく必要があると思う。
- 4月から、ある程度は活動されている。せつかく根ができているものを潰すのもどうかと思うので、実績などを加味して、じっくり考えて答えを出すべきである。
- ある程度は経費を使われていると思う。そこで切って考えるのは難しいので、第2回運営委員会までには、事務局から何らかの案が示しできればと思う。
- 当事者の意欲など色々なものを相当加味していかなければいけない。
- 「やめますか」というのではなく、やっていただけている分には継続してもらえればと思う。
- 災害の影響から活動ができなかった場合は、報告を求めなければいけない。4月から活動しているので、その時の考え方をある程度きちっとしておかなければいけない。
- ◎ 色々な状況がある中で、今だからこそやらないといけないと思う場合もあると思う。年度末になるかどうか分からないが、今の制度では休止という考え方はないので、どういう報告を行うか議論していかなければいけない。今の制度を変えるとなると話し合いが必要である。
- 真備地区の2つの助成団体に連絡をとったところ、1団体は被害に遭われておらず、事業は計画通りを予定されていると聞いている。もう1団体は、まびいきいきプラザを実施場所としており、連絡もとることができなかったため、今後の活動場所や活動可否も含めて、少し落ち着いてから相談ができればと考えている。
- ◎ 委員会としてバックアップをしていく。
- ◎ 新規団体については、ネーミングも色々と考えられており、ペタンクをされる団体もある。
- ペタンクとは、フランス発祥のゲームで、ポイントのものを投げて、そこに鉄のボールを投げて、一番近い球が得点になるというものである。カーリングの原型でもある。
- ◎ ゲートボールだけでなく、ペタンクも発展的な活動である。
- どなたでも気軽にできるゲームである。

承認

(3) その他

- ◎ 地域福祉基金は、市民の保健福祉の増進を図る目的で行っているが、今回の豪雨災害を考え、何か支援できることがあればと思っている。例えば委託事業の中に被害の支援の内容を盛り込むなど、予算の中で推進していきたい。求められている趣旨を汲んでの活動となるが、これから先も支援が続いていく中で、市民生活に活かしていける委員会でありたい。何よりも人々の求めているニーズが大切であり、日々必要となるものも変わっていくので、一時何かやって終わりというのではない。現状を把握しながら考えていければと思っている。
- 何かを主導してやっていく委員会ではない。まずは真備があれだけ被災されている事実を踏まえると、今後の真備のまちづくりの面から、地域福祉基金を使って頑張っていこうとする団体がでてくる可能性がある。そうした場合に、現在の3年間の助成ではどうかと思うので、そうした団体が出てきた時点で考えていく必要がある。ある程度落ち着いたときに、これからもう一度根を張り直していこうという方々に対して、どのように生きがいや生きる希望を灯していけるかを考えていかなければいけない。市としては、そうした団体を募集をしているというPRはできる。その部分で地域福祉基金のあり方を考えていく必要がある。

- 簡単に考えて、今の段階では300万円ですべての事業を行っている。その中でできるかとなると、元を増やさなければいけない。
- この地域福祉基金で給付を行うわけにはいかない。
- お金の直接給付は難しい。今後生活が落ち着くと、地域みんなで頑張っていこうという思いが出てくると思うので、その時にできるだけ支援できるように委員会で動いていければ非常にありがたい。予算300万円も増やすことが可能であるので、活動にはしっかり支援できるような方向でご検討いただきたい。
- ◎ 生活支援に繋がる福祉活動に対して支援をしていくということが趣旨だと思う。
- 一番大事なのは、どのようにアピールを行うかである。まちづくりとボランティアの育成ができると思うが、ここでいくら議論してもやる人がいなければ意味がない。まちづくりやボランティアを行う団体が出てくれば助成ができる。ボランティア組織が各所にできればと思う。今は社協頼りなところがあるので、社協の手助けができないかと思う。
- ◎ 社協がボランティアの要請や活動をコーディネートしていくことを支えるという面では、委託事業としていくこともできると思う。また、ボランティアに行くための足と費用があればもっと行きやすくなるので、団体が窓口となり、その団体に助成していくという形もあると思う。
- ボランティアを立ち上げ、そこから派遣する人に助成するというのもいい考えである。
- ◎ 細かい話になるが、ボランティアに行くまでの交通費で真備のタクシー会社を使うとなれば、まちづくりに加えて真備の経済にも反映していけるといった視点もある。
- ◎ 生活のニーズをまず知らなければいけない。何か提案があれば教えていただきたい。今日共有できたことは有意義であった。
- この委員会が出る助成等は年度単位だが、臨機応変に対応することも可能ではないかと思うので、今後の状況も見ながら、こういったタイミングでこういったことができるのか、相談しながら進めたい。

3 閉会

以上により、議事を終了